

変わるこののない

追慕の思い



ただ一向に

南無阿弥陀仏……

# 御 ぎよき 忌

## 法然上人 忌日法要

4月のうららかな日差しのもと、総本山知恩院、大本山増上寺・金戒光明寺・知恩寺・清浄華院・善光寺大本願では、浄土宗を開かれた法然上人を偲んで勤める忌日法要「御忌」が営まれます。

「お念仏をとなえれば誰でも極楽浄土に往生できる」との教えを掲げ浄土宗を開き、民衆を導いた法然上人は、建暦2年（1212）1月25日、80歳の生涯を閉じて西方極楽浄土への往生を果たされました。

その教えは弟子たちによって受け継がれ、上人を慕う人々は毎月の命日になると、現在の知恩院が建つ境域にあった御廟所（墓所）に集い、法要を勤めていました（知恩講）。これが御忌の起源とされます。

「御忌」とは本来、天皇や高僧の命日法要全般に用いられる言葉でしたが、現在は「御忌」といえば、法然上人の忌日法要を指す言葉として定着し、春の季語にもなっています。

大永4年（1524）、後柏原天皇が知恩院へ「毎年1月、京都とその周辺の浄土宗僧侶を集め、法然上人御忌として7日間勤めよ」としたためた詔書を送ったことにより

ます。江戸時代には「御忌」は「法然上人の忌日法要」として、広く親しまれるようになりました。もともとは上人の忌日、1月25日前後に勤められていました。大本山の多くが4月に修めるようになったのは、明治10年（1877）に知恩院がその時期に変えて以後のことです。

800年以上もあせることなく受け継がれてきた法然上人の想い。それは浄土宗の肝要とされる、法然上人が亡くなる2日前に書き遺された「一枚起請文」に「智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏すべし」と記されているように、何をしてお念仏をとなえることが大切です。

今年は平成最後の御忌です。法然上人への追慕の気持ちを込めてぜひ参詣し、お念仏をおとなえください。法然上人もお浄土からお喜びになってくださるでしょう。

2・11面に御忌日程

